

企画事業「青少年を対象とした事業」

「日・タイ青少年交流事業」

平成21年9月25日（金）～10月5日（月）
（10泊11日）

協 力 学校法人沼津学園 桐陽高等学校



I 事業の背景

国際化が進む社会の中で、日本の青少年が異文化を理解し諸外国の青少年と協調できる資質を育むことは、重要なことである。特に東南アジアは日本にとって、歴史・文化・国民性においても欧米諸国より近い存在であり、同じ地域に住む若者としてさらに交流を進めていく必要があると考え本事業を企画した。

II 事業の概要

1 趣 旨

日本の高校生とタイ王国の高校生・大学生が互いに交流を深めることにより、文化や習慣の違いを学び合い、国際理解を深める機会とする。

2 参加対象 タイの高校で日本語を学んでいる学生 40名

3 参加状況 参加人数37名（男10名・女27名）

4 企画のポイント

日本の自然や文化、習慣をより深く理解するために中央青少年交流の家の立地条件を活かした「富士登山」や地元の高校への授業参加、ホームステイ等を取り入れた。

5 実施状況・参加者の様子

9月25日（金）

- ・日本へ向けて、スワンナプーム空港発

9月26日（土）

- ・日本（成田）→中央青少年交流の家へ移動
- ・ウェルカムパーティー

9月27日（日）～9月29日（火）

- ・日本の文化体験「蕎麦打ち」「書道」
- ・日本の自然体験「富士山ハイキング」

9月30日（水）

- ・日本の高校生活体験（桐陽高等学校）
- ・日本の文化体験「茶摘み」



【初めての蕎麦打ち体験】



【茶娘衣装をまとして茶摘み体験】

10月1日（木）

- ・文化交流会
- ・日本の文化体験「温泉体験」
- ・さよならパーティー

10月2日（金）～3日（土）

- ・東京都内散策

10月4日（日）

- ・TDL見学

10月5日（金）

- ・「皇居」見学
- ・タイへ帰国



【あいにくの雨で凍えた富士山ハイキング】 【日本の生徒の中に溶け込んでいた高校での授業】

Ⅲ 成果と課題

1 成果

(1) 日本文化・習慣の理解（タイの生徒）

高校の授業参加では、特別なことはせずにできる限り日常生活の中での受け入れを試みた。その結果、短い時間ではあったが、日本の習慣や文化の違いを肌で感じることができたとの感想が多く寄せられ、より一層異文化理解につながった。

(2) アジアに対しての興味・関心の増加（日本の生徒）

交流を行った桐陽高校は、国際交流コースも設置しているが、タイとの交流は昨年引き続き2年目である。タイの学生が授業に参加したり、桐陽高校の生徒会が中心となって交流会を計画・実行したことでタイの文化に対しての興味や関心が増し、相互により影響を受け合ったと言える。

2 今後の課題

(1) その後へ続く交流へ

今回の研修は日タイ両国青少年の相互理解を深めることを中心に、地元の高校への授業参加や文化交流会を行った。当初は昨年同様ホームステイを計画していたが、新型インフルエンザ流行の影響を受けたため、ホームステイ無しの日帰りの交流となった。次年度は、これまで通りホームステイを行って日本の家庭生活を肌で感じるとともに、交流では世界に共通するテーマを決め、それぞれの意見交換や討論会等を行い、その成果を各国（各校）で広める活動を行うことなど、事業後も継続的に交流を続けることで、より深い理解につながる。



【日本の文化「習字」体験】

(2) 活動の選択

「書道」や「茶摘み～手もみ茶づくり」は日本の文化体験として大変喜ばれた。日本の文化を学ぶ目的を持って参加しているので、どの活動に対しても積極的に参加していたが、温泉体験は生活習慣の違いから、少々ためらいを感じていた。